

広報

やまこし

1979
11月
第137号

発行/新潟県古志郡山古志村役場 電話 (025859) 2331 ■印刷/大川印刷株式会社 ■毎月1日発行



恩給が改善されます

法律の改正で、旧軍人等の恩給が改善されます。
現在受けている恩給・扶助料の増額については、次の請求改定となるものを除き、自動的に行われます。しかし、次の改善については、請求の手続が必要ですので、該当する方は所定の請求手続を行ってください。

旧軍人の一時恩給及び一時金について

- 請求手続を必要とするもの
- (一) 次の要件を備えた旧海軍の特務士官や準士官であった方の仮定俸給の改善。
 - 下士官として在職していたことがある者
 - 昭和20年11月30日までの旧軍人としての実在職年数が、普通恩給としての所要最短期間以上である者
 - (二) 旧軍人等の加算年を年金額に反映される年齢が「六五歳以上」から「六〇歳以上」に引下げられます。
 - (三) 訓導等として勤務していた者が代用教員となり、引続き訓導等になった場合、代用教員期間が恩給の基礎在職年に通算されます。
- 旧軍人としての実在職年が三年以上ある方には、現在、一時恩給もしくは一時金が支給されています。ところが、まだ相当の方が請求していません。未請求者またはその遺族の方は、次の事項を参考にして、役場までご相談ください。
- 旧軍人の実在職年が引続いて三年以上の人………一時恩給
 - 旧軍人の実在職年数が断続しており、合計して三年以上の人………一時金
- なお、詳しくは住民課福祉係におたずねください。

お知らせ

相続放棄は 3 か月以内に

家庭裁判所へ

「夫は商売をしていたが、死後に、自分の知らない借金をしていたことがわかった。財産はなく、残された者にはこれを支払う力がないのだが……。」
こんな相談を、新聞などで見うけることがあります。
法律によると、相続される財産・遺産には、その人に属していた権利義務いっさいが含まれます。したがって、家・土地・現金などのほかに、売買代金や借金などの負債も負わなければなりません。財産に対して負債が多いときには、あとに残された遺族が苦しい思いをすることになってしまいます。そこで、3か月以内に家庭裁判所に申出て、「自分は相続をしま

せん」という「相続の放棄」をすることができず、この手続きを済ますと、遺族は亡くなった人の財産や負債と無関係になります。また、相続放棄はこのような場合だけでなく、農業や個人営業などの細分化を防ぐという目的にも使われています。きちんと相続放棄しないで「相続分なきこと証明書」によって遺産をもらわない形をとっていますと、あとで相続債務の追及を受けられることにもなりかねませんので注意してください。
相続に関して困った問題があるときは、なるべく早く家庭裁判所にご相談ください。
(新潟家庭裁判所長岡支部)

電話の移転工事の申込みはお早めに

家屋の完成や、転居の日が決まりましたら、一日も早く電話の移転工事を申し込んでください。また、家屋の増改築の際は、電話用の配管もお忘れなく設備してください。

長岡電報電話局 ☎(32)-0600 (無料)

犬、ねこの引取り

次により不用犬、不用ねこの引取りを行います。
日時—11月9日(金) 10:30~10:40
会場—役場
手数料—1匹につき1,000円。子犬、子ねこは10匹につき1,000円。
引取方法—子犬、子ねこは段ボール箱に入れ封をする。親犬、親ねこは麻袋等に入れ持参する。なお、印鑑を持参ください。

インフルエンザ予防接種

(ジフテリア・百日せき・破傷風三種混合ワクチン接種)

期 日		会 場	時 間
第1回	第2回		
11月12日(月)	12月3日(月)	種芋原中学校	13:30~14:30
13日(火)	4日(火)	池谷小学校	13:30~14:00
15日(木)		虫亀小学校	14:30~15:00
14日(水)	5日(水)	竹沢小学校	13:30~14:00
		東竹沢小学校	14:30~14:50
15日(木)	6日(木)	山古志中学校	13:30~14:30

インフルエンザ 対象…幼児、小中学生、一般希望者
料金…幼児—無料、小中学生—500円、一般—700円
三種混合ワクチン 対象…昭和51年8月1日~昭和52年7月31日生まれの者は3回接種(3回目は個々に連絡)、および、昨年接種を受けた者は1回接種

停電のお知らせ

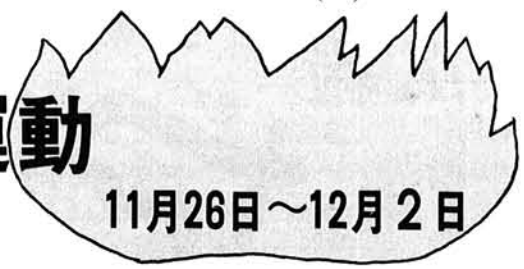
日時—11月19日(月) 9時~13時

区域—山古志村全域

廃品回収

さる十月九日、山古志中学校生徒により、今年二回目の廃品回収が行われました。
働く喜びと回りの美化、また、物を大切に有効に利用するため、半日間一生懸命でした。その収益金は、生徒会活動に使われ、今回は三〇〇〇円。
最近の生徒数が少なくなり、一部落三、四人のところもあって、なかなか大変なようです。
「山坂を重いものを運ぶのですから……でも、ここの子供たちはよく働きます。また父兄の皆さんも協力してくださって助かりました。」と、担当の金山先生、回収が終って、業者が引取りに来る間にマンガ本を読むのが、生徒たちの一番の楽しみだそうです。





秋の全国火災予防運動

11月26日～12月2日



十一月から三月にかけての冬場は、暖房器具を使うことから、最も火災が多い季節です。火災の原因となった暖房器具をみますと、一番多いのが石油ストーブ。昨年に発生したストーブによる火災のうち七五%、全国で二千件余りが石油ストーブによるものでした。

今年も十一月二十六日から十二月二日まで、秋の全国火災予防運動が繰り広げられます。いよいよ寒さも身にしみ、火が恋しい時期に入りますが、火の用心には十分注意してください。

火の3要素

仲たがい〴〵で 火は消える

火が出る ー物が燃えるためには、「燃える物」と「空気」と「熱」が必要です。これは、いわば「火の三要素」といえます。このうち、どれ一つ欠けても物は燃えません。

私たちは毎日台所などで、この三要素を「組み合わせ」たり「仲たがい」させて、点火したり消火しているのです。

燃える物を除く 除去消火

ガス火災のとき元せんを閉めたり、山火事するとき、周囲の木を切り延焼を防ぐ。

空気を断つ 窒息消火

天ぷらなべに火が入った時、フタをする、また、倒れた石油ストーブが燃えだしたとき、水でぬらしたシーツなどをかぶせると消すことができます。

熱を下げる 冷却消火

火事ノと聞いたら、すぐ「水」とピンときます。また、天ぷらなべに火が入ったとき、手近にある野菜を入れて消すのもこの方法。

みんなで守ろう 家庭のきまり

このたび、山古志村の家庭憲法ともいえる「みんなで守ろう 家庭のきまり」ができました。

これは、PTA・学校・役員職員等で構成する「山古志の教育を語る会」で、明るい村づくりはまず家庭から、と慎重に審議のうえ決定されたものです。

この「家庭のきまり」は後日、全家庭に配布しますが、見やすい所には、大人も子供もみんなで守っていただきたいものです。



「おはよう」できょうも明るい一日を

「はい」の返事を気持ちよく

「ありがとう」心をこめてはつきりと

「やりぬきます」自分の仕事を最後まで

「学びます」人に言われず自分から

「選びます」テレビの時間と番組を

「延ばしません」きょうやることを明日には

「つくります」明るい家庭を語らいで

石油ストーブの取扱い

安全九か条



暖房には欠かせない石油ストーブですが、取扱い方一つで恐ろしい「火魔」に一変します。石油ストーブによる火災は、ほとんどが取扱いの不注意が原因です。日常の取扱いには、次の点を

- 特に気をつけてください。
- 〔給油するとき〕
- (一) 灯油を入れるときは、必ずいったん火を消す。火をつけたまま補給することは危険です。
 - (二) 給油中にこぼれた油は、よくふきとる。
- 〔置き場所〕
- (三) カーテンやふすまなど燃えやすいもののそばや、物が落ちやすいたの下のなどに置かない。
 - (四) 人の出入口や通路などは転倒の危険があるので避ける。
 - (五) 移動させる場合は、いったん火を消す。火をつけたまま持ち運ぶのは危険です。
- 〔周囲の状況〕
- (六) 新聞や雑誌など燃えやすいものは、そばに置かない。
 - (七) ヘア・スプレー、マニキュア、接着剤など引火性のあるものは、そばで取扱わない。
 - (八) 「対震自動消化装置」のついたものを選び、説明書をよく読んでから使用する。
 - (九) 使用する部屋に合った構造の機種を選ぶ。

火災原因ナンバーワン... たばこの投捨てはやめましょう!



議員さんの「勉強会」開催される

さる十月十一日、三島郡・古志郡町村議会議員研修会が山古志中学校で開催されました。この研修会は、三島郡・古志郡の議員全員が集まって研修を行うもので、議員さん方の勉強会ともいえるものです。

当日は約一四〇人の議員が集まり、三島郡の五十嵐県議などの祝辞の後、「地方自治と議会の権限について」の講演が行われ、熱心に聞き入っていました。

講演の後、会場を池谷角突き場に移して昼食をとり、その際、牛の角突きが他町村の議員に紹介されました。



錦鯉総合センター竣工

十月十八日、二丁野に完成した錦鯉総合センターの竣工式が行われました。

このセンターは、特定農村振

衆議院議員総選挙 結果

10月7日執行

衆議院総選挙

有権者数	二、七〇一人	渡辺 秀央	一四四票
投票者数	二、四九四人	古川 久	八二票
投票率	九二・三四%	片桐 政美	二四票
		真貝 秀二	一一票
		(無効投票)	一八票
投票の内訳		最高裁判所裁判官国民審査	
田中 角栄	一、二五九票	投票者数	二、四八〇人
村山 達雄	三八七票	投票率	九一・八二%
桜井 新	二一八票	有効投票	二、二九四票
三宅 正一	一八〇票	無効	一八六票
小林 進	一七一票		

養鯉家は526戸

昨年十一月に行われた第六次漁業センサスの結果ができました。養鯉家は526戸、これに漁協を合わせ、経営体数は527となりました。養鯉に従事している人は756人。昭和四十八年と比べると、経営体数で198戸(27・3%)の減、従事者数で25人(27・4%)の減となります。いっぽう養鯉池面積は132ha、昭和四十八年より4haの減。逆に一経営体平均では増加し25a。養鯉家数は減っていますが、個々の経営規模は拡大されています。

第10話

観光の基礎
風景と味を作り出す

観光を開発の軸に

これまでの話の中で、稲作、畜産、錦鯉、畑作等の、村の資源を生かした産業の育成について繰り返した。その大事さをお話してきました。しかし、いずれの産業も山古志の自然条件では大規模に行なうことが困難であり、産業それぞれが弱く、村全体がそれに頼りきることはできません。

観光は、これらの小さな産業が外の価格変動に翻弄される状態から安定した生産に向かわせる一つの軸となりうるのです。例えば、畑作でできた野菜を小さな単位で売ることでもできるし、錦鯉は、新しい顧客を得ることができ、米もどんどん村内で消費できれば、それだけ米作りにも精が出るでしょう。しかし、山古志での観光は、今までの、いわゆる観光地でよく見られた、訪れるものがそこで何

か悪いことをし、迎えるものが、客のふところからかすめとろうとするようなものでは決してあってはいけません。つまり、人に媚を売って、金をもうけようというのではなくて、山古志の人達の生活を豊かにし、その中へ都会の人間を引き入れる。決して、自主性を失わず、都会の人間と対等につき合う。そうすることで、もてな

ただだけのサービス料はいたたくことはできるし、多くの情報や知恵も得ることができるようになるはず。さて、生活を豊かにするといっても、金の面だけではないのです。風景、味、文化、遊び、そして先程述べた産業等といった広い意味での生活が豊かさを持たないかぎり、都会人を引き入れ、サービス料をとれるようなものとはなり得ません。今の山古志では、サービス料が

とれるでしょうか。残念ながら、とても、そんな段階にはきていないように見えます。家のまわりの畑を整備し、様々な花や作物を作るよりは、日雇いの賃稼ぎに出た方がよいと考える人の方が多いようですし、鯉や山菜の食べ方を考えるより、インスタントラーメンですませてしまふ人が大方のようです。

今回は、観光における基本的な要素である風景と味の作り方についてお話しします。風景というのは、自然の一部だから、料理の味のように「作る」なんてことはできないように思えます。しかし、風景作りに見事に成功し、観光地として立っている所は、実はかなりあるのです。味の方は、簡単そうに見えて、いざ、人を魅きよせる程の本物の味を作り出すことは大変なことなんです。ただし、それなりに本物

の味を作り出し、名所となっている所もかなりあります。そうした事例を二、三お話しする中で、山古志でのやり方を考えてみましょう。ただし、とりあげた素材は、私がこれまで山古志を訪れた時に見かけたものだけです。本当にどれだけの素材（風景であれば、風景のよい所、歩いて楽しい所、山古志に適した草花等、味ならば、米、鯉、山菜等）があるかは、皆様方自身が、充分調査し見極めて、その利用方法を考えて欲しいものです。

風景作り

風景作りは、まずは、花作りなんです。例えば、あじさいは、千株以上あると名所になるんです。鎌倉であじさい寺といわれる明月院は、千何株、北小金井の本土寺では、五百株位、それであじさい寺と言われて、6月頃になると、すごい程人が行くんです。こうした風景作りをもっとも見事に成功させたのが宮崎県でしょう。宮崎県では、沿道修景美化条例というのを作っているのです。道の両側に向けてとにかく色々な花を植えています。植わっているものの中で代表的なものを申しますと、フェニックス、ソテツ、車

という例が佐渡の宿根木にあるんです。ここには、地方にある民俗博物館では一番りっぱな博物館ができています。ここには、私はよく行くのですが、先生が来たのだからひとつソバを御馳走しようじゃないかと六人程のおばあちゃんがソバをうってくれた。実は部落の若い者達は、あんなネズミ色のソバと出たすのに反対していたんです。しかし、食うてみると、なる程うまい。うまい、うまいといっているうちに二皿程食べてしまったのです。

その後の座談会になって「先生が賞めてくれるのなら大鼓判もらったようなものだが、これを皆に認めてもらいたいものだ」というので、半分おだてるつもりで、「あそこ赤字になっているレストハウスでこのソバを出したらいい」と言ったのです。そしたら真にうけちゃって、赤字で困っていたバス会社のレストハウスにおしかけてやりはじめた。やったら売れはじめた。来る人が皆ソバを食わせろといってくるようになった。それで黒字になったのです。ソバは、レストハウスにとどまらず、近くの小木という町に、ソバ屋ができるまでになり、ソバ畑も大分作られるようになるという所までなりました。

輪梅、夾竹桃、山桃、ポプラ、カシナ、芙蓉、ななかまど、もみじ、かえで、霧島つじ、うの花、萩、ねむの木、栗、山桜、等々、ここでもそこら辺に生えているものがあるでしょう。金のかかっている木は、フェニックスとかほんのわずかなもので、実はその土地にあるものを、何町も植えている。それだけで素晴らしい風景ができてくるんです。

私が、昭和十五年に、初めて宮崎県に行ったその当時、まったくさみしい所だったのです。戦後になってそこを、観光でどうにかしようと考えた時、青島という熱帯植物の生えた島がある。これを売り物にしようとするんだが、それだけではだめだということで、宮崎から青島に通じる道にフェニックスをずっと植えた。これだけで大分人が来るようになった。もうちょっと見る所がないだろうかとみると、霧島山の海老野高原というのがあった。ここも荒れ果てた所だったのです。そこへ、霧島ツツジと萩を植えたのです。そして温泉があるということで、海老野高原に行く人が増えた。その二つだけで五百万人位の人が行くようになったのです。そして、その後、沿道にずっと花を植えて来たことで、今、一千万人の観光客が行っておるのです。

さて、山古志で、味の素材となるものは、と見てみると、鯉、牛肉、米、山菜等々と意外に沢山あるんです。鯉については、最近、婦人グループで、はねだし鯉を甘露煮にして、産祭りで好評を得たという話をききました。これも大変良いことであるんですが、山古志の生産からすれば、もっと大々的に食べさせる算段があるんじゃないかと思えます。

長野県、飯田市の松尾という部落では真鯉の生産が盛んですが、一時期生産過剰となった時がありました。ホテルを作り、うまい鯉こくを食べさせたところ、これが成功し、鯉の生産安定に役に役立ったそうです。

肉は、かなり良い肉の生産も行なっているようですが、殆んど芝浦に出して、それっきりだそうです。その内いくらかでも、山古志に持って帰り、観光客に食わせるのもいいが、まずは、自分達で食って見たらどうだろうか。色々な肉料理ができてくるはず。なにはともあれ、山古志の味作りには、うまいものを食べたいとする執念を自分自身が持つことでしょう。

構成 和田典久

第10話

観光の基礎
風景と味を作り出す

観光を開発の軸に

これまでの話の中で、稲作、畜産、錦鯉、畑作等の、村の資源を生かした産業の育成について繰り返した。その大事さをお話してきました。しかし、いずれの産業も山古志の自然条件では大規模に行なうことが困難であり、産業それぞれが弱く、村全体がそれに頼りきることはできません。

観光は、これらの小さな産業が外の価格変動に翻弄される状態から安定した生産に向かわせる一つの軸となりうるのです。例えば、畑作でできた野菜を小さな単位で売ることでもできるし、錦鯉は、新しい顧客を得ることができ、米もどんどん村内で消費できれば、それだけ米作りにも精が出るでしょう。しかし、山古志での観光は、今までの、いわゆる観光地でよく見られた、訪れるものがそこで何

か悪いことをし、迎えるものが、客のふところからかすめとろうとするようなものでは決してあってはいけません。つまり、人に媚を売って、金をもうけようというのではなくて、山古志の人達の生活を豊かにし、その中へ都会の人間を引き入れる。決して、自主性を失わず、都会の人間と対等につき合う。そうすることで、もてな

ただだけのサービス料はいたたくことはできるし、多くの情報や知恵も得ることができるようになるはず。さて、生活を豊かにするといっても、金の面だけではないのです。風景、味、文化、遊び、そして先程述べた産業等といった広い意味での生活が豊かさを持たないかぎり、都会人を引き入れ、サービス料をとれるようなものとはなり得ません。今の山古志では、サービス料が

とれるでしょうか。残念ながら、とても、そんな段階にはきていないように見えます。家のまわりの畑を整備し、様々な花や作物を作るよりは、日雇いの賃稼ぎに出た方がよいと考える人の方が多いようですし、鯉や山菜の食べ方を考えるより、インスタントラーメンですませてしまふ人が大方のようです。

今回は、観光における基本的な要素である風景と味の作り方についてお話しします。風景というのは、自然の一部だから、料理の味のように「作る」なんてことはできないように思えます。しかし、風景作りに見事に成功し、観光地として立っている所は、実はかなりあるのです。味の方は、簡単そうに見えて、いざ、人を魅きよせる程の本物の味を作り出すことは大変なことなんです。ただし、それなりに本物

の味を作り出し、名所となっている所もかなりあります。そうした事例を二、三お話しする中で、山古志でのやり方を考えてみましょう。ただし、とりあげた素材は、私がこれまで山古志を訪れた時に見かけたものだけです。本当にどれだけの素材（風景であれば、風景のよい所、歩いて楽しい所、山古志に適した草花等、味ならば、米、鯉、山菜等）があるかは、皆様方自身が、充分調査し見極めて、その利用方法を考えて欲しいものです。

風景作り

風景作りは、まずは、花作りなんです。例えば、あじさいは、千株以上あると名所になるんです。鎌倉であじさい寺といわれる明月院は、千何株、北小金井の本土寺では、五百株位、それであじさい寺と言われて、6月頃になると、すごい程人が行くんです。こうした風景作りをもっとも見事に成功させたのが宮崎県でしょう。宮崎県では、沿道修景美化条例というのを作っているのです。道の両側に向けてとにかく色々な花を植えています。植わっているものの中で代表的なものを申しますと、フェニックス、ソテツ、車

という例が佐渡の宿根木にあるんです。ここには、地方にある民俗博物館では一番りっぱな博物館ができています。ここには、私はよく行くのですが、先生が来たのだからひとつソバを御馳走しようじゃないかと六人程のおばあちゃんがソバをうってくれた。実は部落の若い者達は、あんなネズミ色のソバと出たすのに反対していたんです。しかし、食うてみると、なる程うまい。うまい、うまいといっているうちに二皿程食べてしまったのです。

その後の座談会になって「先生が賞めてくれるのなら大鼓判もらったようなものだが、これを皆に認めてもらいたいものだ」というので、半分おだてるつもりで、「あそこ赤字になっているレストハウスでこのソバを出したらいい」と言ったのです。そしたら真にうけちゃって、赤字で困っていたバス会社のレストハウスにおしかけてやりはじめた。やったら売れはじめた。来る人が皆ソバを食わせろといってくるようになった。それで黒字になったのです。ソバは、レストハウスにとどまらず、近くの小木という町に、ソバ屋ができるまでになり、ソバ畑も大分作られるようになるという所までなりました。

構成 和田典久

第10話

観光の基礎
風景と味を作り出す

観光を開発の軸に

これまでの話の中で、稲作、畜産、錦鯉、畑作等の、村の資源を生かした産業の育成について繰り返した。その大事さをお話してきました。しかし、いずれの産業も山古志の自然条件では大規模に行なうことが困難であり、産業それぞれが弱く、村全体がそれに頼りきることはできません。

観光は、これらの小さな産業が外の価格変動に翻弄される状態から安定した生産に向かわせる一つの軸となりうるのです。例えば、畑作でできた野菜を小さな単位で売ることでもできるし、錦鯉は、新しい顧客を得ることができ、米もどんどん村内で消費できれば、それだけ米作りにも精が出るでしょう。しかし、山古志での観光は、今までの、いわゆる観光地でよく見られた、訪れるものがそこで何

か悪いことをし、迎えるものが、客のふところからかすめとろうとするようなものでは決してあってはいけません。つまり、人に媚を売って、金をもうけようというのではなくて、山古志の人達の生活を豊かにし、その中へ都会の人間を引き入れる。決して、自主性を失わず、都会の人間と対等につき合う。そうすることで、もてな

ただだけのサービス料はいたたくことはできるし、多くの情報や知恵も得ることができるようになるはず。さて、生活を豊かにするといっても、金の面だけではないのです。風景、味、文化、遊び、そして先程述べた産業等といった広い意味での生活が豊かさを持たないかぎり、都会人を引き入れ、サービス料をとれるようなものとはなり得ません。今の山古志では、サービス料が

とれるでしょうか。残念ながら、とても、そんな段階にはきていないように見えます。家のまわりの畑を整備し、様々な花や作物を作るよりは、日雇いの賃稼ぎに出た方がよいと考える人の方が多いようですし、鯉や山菜の食べ方を考えるより、インスタントラーメンですませてしまふ人が大方のようです。

今回は、観光における基本的な要素である風景と味の作り方についてお話しします。風景というのは、自然の一部だから、料理の味のように「作る」なんてことはできないように思えます。しかし、風景作りに見事に成功し、観光地として立っている所は、実はかなりあるのです。味の方は、簡単そうに見えて、いざ、人を魅きよせる程の本物の味を作り出すことは大変なことなんです。ただし、それなりに本物

の味を作り出し、名所となっている所もかなりあります。そうした事例を二、三お話しする中で、山古志でのやり方を考えてみましょう。ただし、とりあげた素材は、私がこれまで山古志を訪れた時に見かけたものだけです。本当にどれだけの素材（風景であれば、風景のよい所、歩いて楽しい所、山古志に適した草花等、味ならば、米、鯉、山菜等）があるかは、皆様方自身が、充分調査し見極めて、その利用方法を考えて欲しいものです。

風景作り

風景作りは、まずは、花作りなんです。例えば、あじさいは、千株以上あると名所になるんです。鎌倉であじさい寺といわれる明月院は、千何株、北小金井の本土寺では、五百株位、それであじさい寺と言われて、6月頃になると、すごい程人が行くんです。こうした風景作りをもっとも見事に成功させたのが宮崎県でしょう。宮崎県では、沿道修景美化条例というのを作っているのです。道の両側に向けてとにかく色々な花を植えています。植わっているものの中で代表的なものを申しますと、フェニックス、ソテツ、車

という例が佐渡の宿根木にあるんです。ここには、地方にある民俗博物館では一番りっぱな博物館ができています。ここには、私はよく行くのですが、先生が来たのだからひとつソバを御馳走しようじゃないかと六人程のおばあちゃんがソバをうってくれた。実は部落の若い者達は、あんなネズミ色のソバと出たすのに反対していたんです。しかし、食うてみると、なる程うまい。うまい、うまいといっているうちに二皿程食べてしまったのです。

その後の座談会になって「先生が賞めてくれるのなら大鼓判もらったようなものだが、これを皆に認めてもらいたいものだ」というので、半分おだてるつもりで、「あそこ赤字になっているレストハウスでこのソバを出したらいい」と言ったのです。そしたら真にうけちゃって、赤字で困っていたバス会社のレストハウスにおしかけてやりはじめた。やったら売れはじめた。来る人が皆ソバを食わせろといってくるようになった。それで黒字になったのです。ソバは、レストハウスにとどまらず、近くの小木という町に、ソバ屋ができるまでになり、ソバ畑も大分作られるようになるという所までなりました。

構成 和田典久

第10話

観光の基礎
風景と味を作り出す

観光を開発の軸に

これまでの話の中で、稲作、畜産、錦鯉、畑作等の、村の資源を生かした産業の育成について繰り返した。その大事さをお話してきました。しかし、いずれの産業も山古志の自然条件では大規模に行なうことが困難であり、産業それぞれが弱く、村全体がそれに頼りきることはできません。

観光は、これらの小さな産業が外の価格変動に翻弄される状態から安定した生産に向かわせる一つの軸となりうるのです。例えば、畑作でできた野菜を小さな単位で売ることでもできるし、錦鯉は、新しい顧客を得ることができ、米もどんどん村内で消費できれば、それだけ米作りにも精が出るでしょう。しかし、山古志での観光は、今までの、いわゆる観光地でよく見られた、訪れるものがそこで何

か悪いことをし、迎えるものが、客のふところからかすめとろうとするようなものでは決してあってはいけません。つまり、人に媚を売って、金をもうけようというのではなくて、山古志の人達の生活を豊かにし、その中へ都会の人間を引き入れる。決して、自主性を失わず、都会の人間と対等につき合う。そうすることで、もてな

ただだけのサービス料はいたたくことはできるし、多くの情報や知恵も得ることができるようになるはず。さて、生活を豊かにするといっても、金の面だけではないのです。風景、味、文化、遊び、そして先程述べた産業等といった広い意味での生活が豊かさを持たないかぎり、都会人を引き入れ、サービス料をとれるようなものとはなり得ません。今の山古志では、サービス料が

とれるでしょうか。残念ながら、とても、そんな段階にはきていないように見えます。家のまわりの畑を整備し、様々な花や作物を作るよりは、日雇いの賃稼ぎに出た方がよいと考える人の方が多いようですし、鯉や山菜の食べ方を考えるより、インスタントラーメンですませてしまふ人が大方のようです。

今回は、観光における基本的な要素である風景と味の作り方についてお話しします。風景というのは、自然の一部だから、料理の味のように「作る」なんてことはできないように思えます。しかし、風景作りに見事に成功し、観光地として立っている所は、実はかなりあるのです。味の方は、簡単そうに見えて、いざ、人を魅きよせる程の本物の味を作り出すことは大変なことなんです。ただし、それなりに本物

の味を作り出し、名所となっている所もかなりあります。そうした事例を二、三お話しする中で、山古志でのやり方を考えてみましょう。ただし、とりあげた素材は、私がこれまで山古志を訪れた時に見かけたものだけです。本当にどれだけの素材（風景であれば、風景のよい所、歩いて楽しい所、山古志に適した草花等、味ならば、米、鯉、山菜等）があるかは、皆様方自身が、充分調査し見極めて、その利用方法を考えて欲しいものです。

風景作り

風景作りは、まずは、花作りなんです。例えば、あじさいは、千株以上あると名所になるんです。鎌倉であじさい寺といわれる明月院は、千何株、北小金井の本土寺では、五百株位、それであじさい寺と言われて、6月頃になると、すごい程人が行くんです。こうした風景作りをもっとも見事に成功させたのが宮崎県でしょう。宮崎県では、沿道修景美化条例というのを作っているのです。道の両側に向けてとにかく色々な花を植えています。植わっているものの中で代表的なものを申しますと、フェニックス、ソテツ、車

という例が佐渡の宿根木にあるんです。ここには、地方にある民俗博物館では一番りっぱな博物館ができています。ここには、私はよく行くのですが、先生が来たのだからひとつソバを御馳走しようじゃないかと六人程のおばあちゃんがソバをうってくれた。実は部落の若い者達は、あんなネズミ色のソバと出たすのに反対していたんです。しかし、食うてみると、なる程うまい。うまい、うまいといっているうちに二皿程食べてしまったのです。

その後の座談会になって「先生が賞めてくれるのなら大鼓判もらったようなものだが、これを皆に認めてもらいたいものだ」というので、半分おだてるつもりで、「あそこ赤字になっているレストハウスでこのソバを出したらいい」と言ったのです。そしたら真にうけちゃって、赤字で困っていたバス会社のレストハウスにおしかけてやりはじめた。やったら売れはじめた。来る人が皆ソバを食わせろといってくるようになった。それで黒字になったのです。ソバは、レストハウスにとどまらず、近くの小木という町に、ソバ屋ができるまでになり、ソバ畑も大分作られるようになるという所までなりました。

構成 和田典久

風景は、作るものなのだということを、宮崎県へ行って痛い程教えられました。ひるがえって、山古志の風景を見ると、色々、素晴らしい素材はあるんだが、それにへそがない。私が最初に山古志に来た時、萩とすすきのきれいな村だという印象がありました。全体的な雰囲気は、今、多くの人々を魅きつけているあのヒマヤラ地域に似ており、小ヒマヤラともいえるような感じなのです。ただいかんせん、客が見て「ここは」という中心適さないということになってしまふのです。しかし、何回も、言ってきたように、風景は作るものなのです。中心がなければ作ればよいのです。先程申しましたように、素材はあるのです。例えば、萩が沢山ある所で、余計な木を切って、もう少し長い区間に植わっているようにして「こらんなさい。それだけで、相当見応えのある風景になりますよ。

それから、各部落の家のまわりをもう少しきれいにすることで。例えば、あじさいを、植えてみるということです。先程、千株で名所になると言いましたが、けちなことはいわず、二千株植えて「こらんな

人間というのは、食べもの、それもうまいものには、相当ひきよせられるもののようなのです。戦争中、物資が不足して、遂に銀座でも、本物のコーヒーが飲めなくなるような時がありました。そうしたら、銀座全体の客数が驚く程、減ってしまいました。また、南博という有名な心理学の学者が、蔵王を訪れた人についてアンケートをしたところ、どこかの景色が良かったと言っているのは、三割程度と意外と少なかったのです。むしろ、食べもので思いますが割合の方が多かったです。

こと程さように、人間というのは、食いものに執念を持っているものですが、この執念を逆手に使い、うまい食いのを作り出しそれをこにして、多くの人々を呼びよせることに成功している例も多いのです。北海道の帯広の近くに、池田町という町があります。この町に、大変面白い町長がでてきて、町に自生している山ウドに目をつけて、これでワインができないものかと考えた。幸いワインに適した品種であることがわかり、何年かの研究の後、ヨーロッパのワインコンテストで賞をとるまでになった。今では十勝ワインとして有名ですね。さて、ウド酒を作りはじめると、ウド酒につきものの肉料理「ステーキ」を、沢山いる乳牛の雄なんかをおとして作って出すようにもした。それですますますウドウ酒が飲まれる。近頃は、この町まで十勝ワインを飲んでピフテキを食べるための旅行をする人が何万という程でてきているんです。実は行ってみると、平凡な町なのです。そんな所も、やりようによつてはこんな名所になっているのです。

こういう偉い町長さんでなくて、おばあさん達が作りだした味で、多くの人が呼べるようになったと

